

報告事項 コ

平成27年度PTA日韓交流事業に係る訪韓について

平成27年度大韓民国江原道とのPTA交流事業に係る訪韓について、別紙のとおり報告
します。

平成27年11月20日

鳥取県教育委員会教育長 山本 仁志

平成27年度PTA日韓交流事業に係る訪韓について

平成27年11月20日
小中学校課

鳥取県教育委員会と江原道教育庁は平成7年度に姉妹結縁の協定を締結し、教育長と教育監の相互交流、児童生徒・教職員・PTAの相互交流など様々な交流を実施しております。

この度、下記のとおり県内PTA役員6名と事務局3名が江原道を訪問し、特色ある取組を行っている学校の訪問及び学校運営委員会、保護者と意見交換を行いました。

1 PTA交流概要

(1) 期日 平成27年10月13日(火)から16日(金)まで

(2) 訪韓者

団長 鳥取県高等学校PTA連合会副会長 1名

副団長 鳥取県PTA協議会副会長 1名

団員 鳥取県高等学校PTA連合会2名、鳥取県PTA協議会2名

事務局および通訳3名 (計9名)

(3) 日程

期日	内容
10月13日(火)	米子空港集合13:30 米子空港 ⇒ 仁川空港 仁川空港→春川市内 歓迎晩餐会(教育局長) (春川泊)
10月14日(水)	◆江原道教育庁訪問(副教育監表敬)～道庁教育施策についての説明 ○大龍(テリョン)中学校訪問、PTA関係者との意見交換(春川) 春川市→横城市 ○玄泉(ヒョンチョン)高等学校訪問、PTA関係者との意見交換(横城) ○学校運営委員会との意見交換会 歓迎晩餐会(学校運営委員会) (横城泊)
10月15日(木)	横城市→江陵市 ◆江陵鏡浦臺及び船橋荘視察 ○松壤(ソンヤン)初等学校訪問、PTA関係者との意見交換(江陵) 江陵市→仁川市 (仁川泊)
10月16日(金)	仁川空港 ⇒ 米子空港

2 内容

(1) 江原道副教育監表敬及び江原道教育施策の説明

キム・ヨン Chol 副教育監を表敬し、江原道教育施策の説明を聞く(DVD視聴等)。

(対応者：副教育監他9名)



江原教育のビジョン：「みんなのための教育」

- ・お金のかからない教育
- ・質のよい教育
- ・正義のある教育

江原教育の指標：「幸せな学校」

- ・授業福祉(学校革新、授業革新、評価革新)
- ・進路福祉(個人毎の素質と適正に合う夢を探せる進路教育)
- ・施設福祉(感性を育てる学校施設、環境に優しい学校、気楽な教育的空間(冷暖房完備・使いたいトイレ等))

テリオン
 (2) 大龍中学校

【学校概要】2007年開校。

2014年に「国際ユネスコ協同学校」(道内に14校)指定。

2015年江原道庁スマート教育学校指定。

【特徴】・自主的な学生自治プログラムを実施し、自治法廷、サークル活動、職場体験プログラムなどによる学生文化づくりをめざしている。

・スマホ等ネット使用依存の予防措置として、利用時間調査(大学が作成)を実施。危険と判断した生徒への対応は保護者向け通信で治療等同意を得、相談福祉センターと連携し対応。道教育において各校10時間の授業を設定するよう指導されている。LINE いじめと同様の事象(カカオトークというアプリがあるとのこと)に対し、生徒の学校暴力自治で対応を図っている。



テリオン
 (3) 玄泉高等学校

【学校概要】・2015年開校の公立フリースクール(韓国内で5番目。道内では初めて。校区は道内全域)。

・1学年3クラス×15名。(30名は経済的支援が必要な家庭、15名は学校の方針に賛同し希望。)入学選抜について、成績不問、面接のみ。全寮制(月～金)。

【特徴】スローガン:「待つ 待つ 待ちに待つ」

(生徒が自分でやれるまで時を待つ。「自分だけの速度」を認める。)

コミュニケーション、共同体会議を尊重し、進路探索インターンシップで成長をめざしている。





授業で作成されたもの



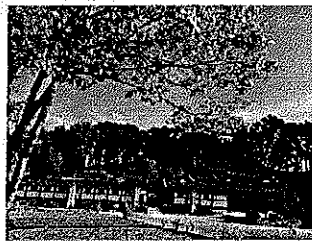
学校運営委員会との意見交換

【学校運営委員会との意見交換会】

昨年度訪日メンバーが多く参加されており、日本の実態を理解されている上での意見交換であり、忌憚のない話し合いができた。

- ・韓国でも小家族、少子化は進んでいる。だんだんと個人主義の風潮を強く感じる。
- ・韓国は教育熱心であり、長時間学校で過ごす。朝食を学校でとる子もあり、3食とも学校となることもある。日本の食事を通じた団らんに感銘を受けた。
- ・江原道では、優秀な人材教育ではなく、みんなが幸せになる教育。道教育では塾に行かなくてもよいようにする施策を進めている。
- ・江原道予算の内、3%が保護者研修に支援されている。

(4) 鏡浦臺(ギョンポデ)及び船橋莊(ソングョジャン)視察～江原道有形文化財



ソヤン
(5) 松壤初等学校

【学校概要】2009年「小さい学校の特性化教育」を推進。

(学生数60名以下の「小さい学校」(江原道の4割を占める)を統廃合から守る施策)

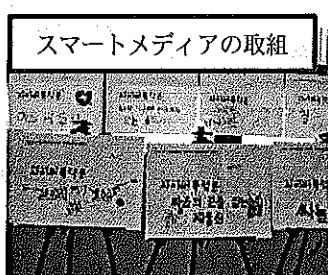
(学生数10名以下が閉校の基準。ただし、半数以上の親の同意が必要)

【特徴】・2006年児童数23名という危機的時期から、2015年130名を超える児童数まで増加した。

- ・「小さい学校の特性化教育」として、「外国語特性化教育」によるグローバル時代の人材育成に力を入れた学校づくりを進めた。
- ・英語ネイティブ教員5名、日本語、中国語ネイティブ教員各1名を採用。
- ・道教育の一環で、スポーツ講師が1名配属。(大規模校には2名)
- ・市内全域の大きな学校から受入れている。
*これ以上児童数が増加すると「小さい学校」ではなくなってしまうため、入学を制限。
- ・学校存続危機の時には、校長等が企業支援(水力発電所)に働きかけ、現在も企業の支援を受けている。
- ・保護者会の協力が活発であり、高齢者との交流にも力を入れている。
- ・通学方法は、現在保護者送迎によるが、edu-bus運営が計画されている。



全景



スマートメディアの取組



図書室



学校概要説明